

施策評価シート

評価年度	平成29年度	事業実施年度	平成28年度	施策主管次長名	教育部次長 深谷 幸広
施策番号	57	施策名	生きがいを持って楽しく暮らせるまち	総合計画掲載頁	68
関係課名	生涯学習推進課、協働推進課、教育行政課、長寿介護課				

1. 施策の概要

施策の目的	対象	対象指標名	単位	H27実績	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標	
				①	人口	人	60,365	60,860	61,154
		②	高齢者(65歳以上)	人	10,127	10,348	10,580	10,754	-
		③							
意図	生涯にわたり豊かな生活を過ごしてもらう	成果指標名	①	生涯学習講座受講者					
			②	生涯学習自主活動者					
			③	生涯学習に満足している人の割合					
			④	シルバー人材センター会員数					

2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H27実績	H28計画	H28実績	H29計画	H30計画	総計目標
①	生涯学習講座受講者	人	2,724	3,000	2,450	4,100	4,500	4,500
	指標設定の考え方と把握方法	生きがいを持って暮らすためには、市民自らが学びたいことや楽しみたいことを生涯を通じて学習、自主活動することであり、市が開催する講座の実績や資料で把握						
②	生涯学習自主活動者	人	1,823	1,900	3,006	3,134	3,180	-
	指標設定の考え方と把握方法	生涯を通じて学習、自主活動する個人および団体を市、教育委員会、文化協会の資料により把握						
③	生涯学習に満足している人の割合	%	55.2	55.6	70.1	70.0	70.0	-
	指標設定の考え方と把握方法	生涯を通じて学習、自主活動することのできる環境づくりを指標として設定し「行政評価アンケート」で把握						
④	シルバー人材センター会員数	人	367	378	369	389	400	400
	指標設定の考え方と把握方法	高齢者が、生きがいを持って経験や趣味などを生かし、社会参加することの指標として設定し長寿介護課で把握						

3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動へ参加するとともに、仲間づくりと自主活動を行う。 高齢者は、積極的に知識と経験を活用して社会参加をする。 			
	行政	市民のために魅力ある学習講座の企画・開催や地区での生涯学習活動への支援をするとともに、高齢者には、就業の場を提供する。			
達成度評価	近隣との比較	<ul style="list-style-type: none"> 「生涯学習講座受講者」の人口割合は、豊田市、刈谷市、日進市、長久手市との比較では、本市が豊田市について多く4.0%。「自主活動者」の割合は、刈谷市(23.9% H27データ)に次ぐ2番目(4.9%)であった。 「シルバー人材センター会員数・増加率」は、西三九市及び豊明市、日進市、長久手市、東郷町との比較で、みよし市は3.6%で長久手市に次いで高い割合である。みよし市の60歳以上の人口に占める会員数は3.57%と高い割合である。 			
	過去3年間の実績との比較	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習講座受講者は、前年度比で26年度は33人増、27年度は161人増で、2年度続けて増加していたが、28年度は図書館学習交流プラザへの移転準備のため、春夏講座を縮小した影響で274人の減となっている。 生涯学習活動者は、前年度対比で26年度は336人増、27年度は245人増、28年度は1,183人増と3年続けて増加した。 生涯学習に満足している人の割合(満足度)は、過去3年間は約55%前後とほぼ横ばいの状況となっていたが、昨年7月に図書館学習交流プラザがオープンし70.1%に上昇した。 シルバー人材センター会員数は、就労先の増加やワークシェアリングの実施により会員数はやや増加傾向にある。 			
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習講座開催事業については、大学との包括協定に基づいた地域連携公開講座の開催をはじめ、ライフステージに合った講座を効率よく開催しているが、受講者が固定化する傾向が見られる。 生涯学習活動者については大幅に増加しているが、市外および民間で自主的に活動している人数を把握することが困難である。 「シルバー人材センター会員数」についてはワークシェアリングだけでは限界があり新たな就労先の開拓が見込めない限り会員の増加も見込めない。また、定年年齢の引き上げが会員数の増加の阻害要因となっている。 				
今後の取組の方向性及び次年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 語学やパソコンなど専門的な生涯学習講座開催事業については、民業圧迫を避け新規学習者の拡大を図るため、講座内容を見直し、初・中級までの講座とする。 生涯学習講座については、年齢や性別に関わらず、学習意欲のある人が自分にあった講座に参加できるよう、講座を計画し開催していく。 平成29年度に発足50周年を迎える文化協会との協働による新講座を計画し開催していく。 生涯学習自主活動者については、引き続き文化展などの発表の場を提供するとともに、生涯学習情報などの発信を行っていく。 シルバー人材センターは就労先の開拓と、より多くの人が就労機会が得られるようにしていく。 <p>(30年度の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学との包括協定による地域連携公開講座の開催を一層充実させ新規受講者の拡大を図るとともに、図書館学習交流プラザでの夜間講座、土曜日講座の開催など勤労者を対象とした講座の拡大を図っていく。 文化協会への加入者を増やすため、春の文化展、秋の文化祭等で来場者に対する体験講座を計画し開催していく。 シルバー人材センターについては、企業訪問やワンコインサービス事業等により新たな就労先の開拓を行い、ワークシェアリング等も有効活用しながら会員の増加を目指すよう支援していくとともに、就労支援センターと連携し就労情報の提供について検討する。 				
市民意識	重要度	低い	満足度	高い	平成28年度市民アンケート調査による